

桑名市子ども・子育て会議 子どもが主人公分科会（第2回） 議事録

日 時	平成26年7月2日（水） 午後1時から午後3時ごろ
場 所	桑名市役所2階 教育委員室
出席委員	大橋了子、小竹広行、下間賢了、松岡初文、水谷秀史（◎）（◎：分科会長）
傍聴人数	1名
会議次第	<ol style="list-style-type: none">1. 開会2. 議事<ol style="list-style-type: none">（1）検討の視点をもとに「課題」及び「その解決に向けた方策」の検討3. その他4. 閉会

1. 開 会

2. 議 事

(1)について

※ 資料に基づき事務局説明。

※ 課題解決に向けた方策については事前に意見集約を行い、まとめたものを資料として机上配布。

《発言要旨》

- ・ 解決に向けた方策として出される意見の多くは、「～～の充実」「～～を増やす」というものだと思う。ただし、医療に関しては、私たち市民が必要以上の受診を自粛したり、慎んだりする方向性の呼びかけも必要だと思う。
- ・ 課題を7つに分ける点についてはご了承いただけるか。①～⑥は前回の分科会で出された意見をまとめたもの、⑦は事務局で追加した。
- ・ ⑥・⑦は非常に大事な項目だと思う。子どもを社会人として立派に育てることが一番の目的なので、特に⑥は非常に重要になると思う。また、⑦も国をあげて取組まなければならない項目だし、特に桑名市は3人子育てできるまちをめざしているので、これはぜひ入れていただきたい。
- ・ 7つの課題のうち、最も子ども目線なのは③子どもの居場所づくりだと思うので、これをもっと煮詰めていければいいと思う。どれも重要で、無駄な課題は1つもないと思う。
- ・ 少子化対策は国レベルで四苦八苦しているものであり、また多方面に関わっている問題なので、項目としては非常に大きいと思う。ただ、まとめれば少子化対策が一番大切なことであることは理解できる。桑名市として力を入れていきたい少子化対策があれば盛り込んでいけばいいが、すでに色々な事業・施策に取り組んでいることもあるので、メニューを増やし過ぎるのはどうかと思う。ありきたりなものではなく、桑名市の特徴が出せるような骨組みにできればと思う。
- ・ ①周産期医療・小児医療の確保のために有効な方策をご検討いただきたい。
- ・ (委員の事前提案をまとめた資料の) No.1は、今進められている医療センターがいつできるかにかかってくると思う。建物には時間を要するが、体制は充実してきている。小児科医は現在4人いるし、産婦人科にも新しいスタッフが増え、今年から周産期科が始められている。新病院の建設が終われば、夜間の救急医療も受けられる体制となる。方

向性としては良い方向に向かっていると思うので、我々がここで議論するとすれば、相談ダイヤルの充実などになると思う。#8000は、今年の3月までは小児科医が担当していたが、4月からは外注することになり、時間帯も翌朝7時までには延びたので、真夜中でも対応できるようになった。このことを周知することも大事だと思う。#8000以外にも、市の医療相談ダイヤルを知らない人も多いと思うので、2本立てでやっていることを周知することが大事だと思う。

- ・広報が届かない家庭もあるので、それらを考慮した情報提供をしなければいけない。医療体制の充実に加えて、医療体制を周知する取組みが必要。
- ・応急診療所が今春からリニューアルされた。担当医は、小児科医、内科医、外科医など色々だが、保護者は小児科志向が強く、電話で担当医の専門を聞いて、小児科医でない場合には「じゃあ、結構です」ということが多い。応急診療所に詰めている医師は、日頃から子どもを診察している人ばかりだし、意欲もあって、とても子どもを大事にしてくれる。それにもかかわらず、担当が小児科医ではないからという理由で受診しないのは、賢い利用方法ではない。必ずしも小児科医の専門性が必要とされるケースばかりではないので、まずは応急診療所を利用してもらいたい。現在の応急診療所の使われ方は、医師会としても残念に思っている。小児科医の専門性が必要な場合には紹介してもらるので、とにかく賢く利用してもらいたい。ちなみに、今年の年末年始から小児科・内科の二診体制をとるので、そのことも周知していただければと思う。
- ・それでは、No.2についてはどうか。確かな知識の伝達という意味では、①に近い部分もあると思う。
- ・子育て世代に最も伝わりやすい情報提供方法は何だろうか。行政からの情報が、漏れなく正確に伝わる方法。
- ・メールマガジンはどうか。セミナーの開催日や先の相談ダイヤルなどをメールマガジンで配信すれば、みるだろうし、データとしても残るのでいざという時に役立つと思う。
- ・No.3についてはどうか。これまでとは若干ニュアンスが異なり、医療体制の中で、地域でサポートできる部分が提言されている。
- ・これは実現できるのか。
- ・松岡委員におたずねしたい。一般人が医療の相談を受け付けることは可能なのか。
- ・ちょっと難しいと思う。責任問題になるので、せめて看護師など資格を持った人の方がいいと思う。医療相談を地域住民に求めるのはちょっと厳しい。健康な子どもを預かることなどは次元が違う。

- ・確かに、家族の困り事とは次元が違う。ハードルが高い。
- ・市の医療相談ダイヤルは24時間体制で受け付けているので、そこを利用すればいいだけの話だと思う。
- ・No.3は簡単なことなら地域で相談できればという主旨だと思うが、医療のことで簡単なことというのはないような気がする。
- ・かかりつけ医に相談するのが一番確かだし、それが無理ならどこかの医療機関に電話で相談すればいいと思う。電話での問い合わせを無下に断るような医療機関はないし、それに加えて、#8000や医療相談ダイヤルまである。地域住民が医療的なアドバイスをするのは荷が重いと思う。
- ・小児科医を希望する保護者が民生委員等のアドバイスで納得するとは思えない。
- ・では、No.3は除外としたい。No.4はどうか。
- ・「安心できる」「信頼できる」という表現はどうかと思うが。
- ・基準がわからない。
- ・市としては、リスクの高い出産であっても安心して出産できるような体制づくりを進めていくこととしている。医療センターの完成によって、その方向に向かっていくと思う。
- ・人口比率で考えると桑名市の産婦人科はどうなのか。
- ・昔に比べれば、出産できる所が減っていることは確かだと思う。
- ・訴訟リスクが高いので産婦人科医になりたがる人が少ないというのは事実なのか。
- ・多少はあるが、確実に医師の数は増えており、将来的には医師は余る。今は心配かも知れないが、何年か先にはそういう心配はまったくなくなる傾向にある。
- ・現実としては不足が指摘されているので、何とか対応していかなければいけない。桑名で産み・育てられるということを謳っているのに、出産は他所の地域でという体制ではまずいと思う。
- ・桑名市では、年間1,300人程生まれている。市内の産婦人科4軒で、1軒当たり300人ちょっとという計算になるが、この数字はどうなのか。
- ・月30件は普通なので、十分やれていると思う。医療センターの月15件は少ない。余力はまだあると思っていただいて良い。新病院ができてスタッフも増えれば、余力はもっと増える。
- ・情報提供の充実でクリアできると考えていいか。
- ・今の病院があまりきれいではないので、母親たちに好まれないのが原因だと思う。どうしても新しくてきれいな病院に患者は集中する。

- ・産婦人科の確保については、実現に向けての方策が進められていると判断したい。相談については、No.1・2に含めることとしていきたい。
- ・助産師が大事になると思う。あまり情報はないが。
- ・相談体制の中に助産師も大きなウェイトを占めると理解している。No.5は医療体制ではないので後程としたい。No.6についてはどうか
- ・赤ちゃん訪問は4か月までか。
- ・保健センターでは、国の示している赤ちゃん訪問については、生後4か月までをめざして取組んでいる。全戸訪問は95%程度できている。残りの5%はもう少し遅れる。
- ・1か月児健診、4か月児健診で医療機関に行き、その間に赤ちゃん訪問が実施されるので、少なくとも3回はどこかに相談したり、専門職に接する機会があることになる。
- ・残りの5%が心配。
- ・5%には、長期里帰りの人、連絡がつかない人、拒絶する人などがいる。具体的な例には「年齢の拡大（1歳までなど）」と提案されているが、1歳くらいの段階ではほぼ100%把握できている。
- ・マタニティ相談はどうか。
- ・妊婦同士の集まれる場所と関連するが、保健センターではマタニティセミナーを開催しており、その際に交流できるし、相談にも乗れる体制が整っている。広報等でも情報提供している。
- ・保育士や幼稚園教諭がそれらの情報を知っていれば、保護者にアドバイスしてやれると思う。もっと連携を取っていきたい。
- ・マタニティ相談については、相談体制の一環として含めていきたい。既存の赤ちゃん訪問に加えて、何らかの方策が必要ということであれば検討していく必要がある。現行の取組みを100%に近づけること以外に、何か方策が必要という考えがあればお願いしたい。
- ・4か月児健診及び10か月児健診は無料なので、個別で各診療所に行っていると思う。1歳半と3歳は保健センターだが、これも無料なので行く人が多い。6～7か月や1歳・2歳児健診は有料なので受診率はやや下がるが、先の4つである程度しっかりやれていればいいのかなと思うが、まったく受けない人をどうフォローしていくかが課題。子どもの年齢が上がると受診率は低下していく。
- ・受診率は1歳半が約95%で一番高い。3歳児健診では92～93%となる。乳児は80%台とやや低い。未受診者には受診勧奨を行っている。
- ・そういう人への対処法が重要だと思う。

- ・赤ちゃん訪問の充実に関する方策を盛り込むかどうか判断してほしい。
- ・とりあえず、4か月までという現在の取組みで100%をめざしてはどうか。
- ・現在の取組みの実施率を上げるということで検討していきたい。No.7はどうか。
- ・桑名市は小児科医が少ないのか。
- ・開業医は増えないが、医療センターの小児科医は増えている。人数としては増える目途がついている。ただ、子どもは今後減っていくので、それが理由で医師も増えないと思う。
- ・小児科医が増える方向性はできているので、それを市民が知って、利用しているかの問題になる。増やすというよりも、増えていますよという情報提供の方が大事。
- ・増えていることが認識されていないことが課題なので、情報提供の方で対処したい。
- ・子ども医療費の助成対象年齢は、昨年度に中学生までに引き上げた。
- ・中学生が無料になるには、きょうだい3人以上という条件が付いているので、ほとんどの家庭は該当しない。
- ・対象年齢が拡大されればありがたいのだろうが、医療費の窓口支払いが煩わしい。
- ・窓口負担ゼロが保護者にとっては理想かも知れないが、それには弊害もあり、償還方式に戻している保険者もある。その理由として、夜間・休日であっても、いつ行ってもタダというのは安易な受診を招く結果となる。窓口負担があることで一定の歯止めになると評価され直している。
- ・子ども医療費助成の対象年齢拡大は財政的には難しいと思うが、ここで検討するほかには機会がないと思う。入れてもらえるとありがたい。
- ・予防接種ワクチンについても検討してほしい。おたふくを助成していないのは、桑名市といなべ市ぐらい。他の近隣市町では助成している。
- ・次に、②仕事と子育ての両立に対する職場の理解、職場環境・労働条件等の整備をみていきたい。事業主や上司の子育てに対する理解はそのまま課題とすることにご理解いただけたらと思う。企業の経済的負担軽減の仕組は大きな話になると思うがどうか。
- ・市レベルでは難しいと思う。
- ・企業の経済的負担軽減の仕組は、事業主や上司の子育てに対する理解の方策の1つとして考えるのはどうか。
- ・企業の経済的負担軽減の仕組は、市長に聞こえるように分科会として載せておく必要がある。
- ・大きな問題ではあるが、ピンとこない。とりあえず、あげとくだけあげておけばいいと思

う。

- ・分科会の方策の1つとして残すという方向で良いか。
- ・社長に理解があっても現場に理解がないかも知れない。とにかく金銭的に担保することで前に進む。
- ・企業の経済的負担軽減の仕組みも入れるということで進めさせていただく。No.8についてはどうか。
- ・No.8～13は、事業主や上司の子育てに対する理解とほとんど変わらないので、それぞれ膨らませた方がいい。
- ・子どもが病気の時に頼りにするのは保護者なので、そういう意味では企業に努力を求めるのは大事なことだが、その負担を少しでも減らすために病児・病後児保育がある。今、市内には1か所だが、国の計画では人口10万人に対して1か所としているので、桑名市にはもう1か所あっても良いと思う。多い所では、人口17万人に対して5か所の病児・病後児保育を実施しているので、できれば1～2か所増やしてもらいたい。病児・病後児保育に預けて仕事に行くという選択肢も生まれると思う。予算は必要になるが、検討に値すると思う。
- ・病児保育とホームドクターは別でいいか。
- ・勿論、別で構わないと思う。一緒である必要はない。
- ・病児・病後児保育の稼働率は100%ではない。
- ・時期的なものによるので、冬場は稼働率が高く、断るケースもあるが、普段はそうでもないのでは割が合わない。
- ・子どもの病気は季節によるので、冬だけ実施する病児・病後児保育があっても良いと思うが。
- ・詳細は確保策の検討で話したいと思う。事業主に対する経済的な支援や啓発が必要になるので、それらを方策として考えていくこととしたい。
- ・企業の経済的負担軽減の仕組みは、もう少しわかりやすい言葉にできないか。
- ・それも会長と擦り合わせて検討したい。③子どもの居場所づくりについてはどうか。
- ・居場所づくりというと、預けられる場所をイメージしがちだが、家庭で家族と共に過ごす時間を確保する視点も大事だと思う。
- ・家庭、地域、施設・設備、ファミリーサポートのような互助の4つの視点に集約されると感じているがどうか。
- ・課題⑦の少子化対策を踏まえれば、外の誰かにみてもらえる方が子どもの数は増える

思う。祖父母がいたとしても、2人も3人も面倒をみるのは難しい。子どもを増やしたいのであれば学童が必要。

- ・現在のニーズでは、子どもを預かってほしい保護者が多い。
- ・子どもが主人公分科会だが、施設などのハード面の充実だけで良いのだろうか。地域や家庭が果たす役割についても盛り込んでいく方が、分科会の趣旨として正しいという意見があったと思う。
- ・就園児の保護者が土曜日に働きたい場合、毎週異なる園に預けられることも想定される。これが子どもにとって良いことかも考えなければいけない。家庭に子どもを戻すという視点も忘れてはいけないと思う。
- ・子どもを預けられる場所や預かりの主体を増やすことばかりではなく、親が子どもと過ごせる環境づくりも意識していくことが重要。親が子どもの面倒をみて、躰をすることが最も大事。子どもを預けられる環境ばかり充実すると、子どもを預けて遊びに行く親が必ず出てくる。保育の現場では既にそういう親が増えている。子どもが主体というよりは、親が遊ぶための支援になり兼ねないし、現にそうなりつつある。家族と一緒に遊べる時間と場所を確保していくのが大事。支援の仕方やあり方に気を付けないといけない。
- ・家庭内で家族とともに過ごす時間の確保は、最重要項目として、最初に記載するのはどうか。園の経営者や関係者の中には、満3歳でもできれば親と過ごした方が良いと考える人が多い。ましてや、0～2歳なら尚更。
- ・子どもの目線で考えて、子どもにとって最も良い環境を考えていくことが大事。
- ・お二人の意見は重々理解できるが、やはり少子化のことや生活のことを考えると、学童保育等も重要だと思う。子どもが親と一緒に過ごせることは理想だが、それを望んでいてもできない現状があると思う。ひとり親などの家庭の事情等もあるので、やはり保育・学童の確保は必須になってくる。
- ・おっしゃる通りだと思う。ただ、「忘れてはいけないよ」と警鐘を鳴らすという意味で、家庭内で家族とともに過ごす時間の確保は大事だと思う。
- ・協力できる祖父母も減っており、社会が子どもを育てる時代になりつつある。極端に言えば、子どもは国が育てるところまで行かないとダメだという気がする。
- ・家庭内で家族とともに過ごす時間の確保を最上段に持っていくことでよろしいか。
- ・各サポートが先、中心となる家庭が最後というのは変なので、家庭内で家族とともに過ごす時間の確保を最初に持って行った方がいい。

- ・ただし、そのために何ができるのかを問われるとちょっと厳しい。
- ・家庭内で家族とともに過ごす時間の確保を最初に持つて行くこととしたい。課題④家庭での教育推進についてはどうか。
- ・市民がパッと見た時に、教育の意味をちゃんと理解してもらえるのか不安に思う。単に学力と誤解されては困る。
- ・イメージとしては子育て力になると思う。
- ・家庭での子育て力・教育力の向上となっていると、教育力は子育て力とは別物と理解できるので、自宅で算数・国語の勉強をしなければと思う人も出てくる。
- ・教育力はどうしても学力のことを連想させると思う。子育て力の向上に一本化しても良いと思うがどうか。課題自体も、家庭での子育て力の推進に変えても良いと思う。
- ・子どもを育てる第一義的な責任は保護者という認識は当たり前のことだが、改めてこれを言わなければいけない時代ということを頭に留め置いた方がいい。本来だったらとんだお節介になるはずだが、これを言わないと成り立たない時代になった。
- ・課題④は家庭での子育て力の推進という文言に修正したい。また、家庭での子育て力・教育力の向上からは、教育力を削除したい。⑤特別な支援を要する子ども等への支援（障害・外国人等）に移る。
- ・事務局にお聞きしたい。外国人への対応は大きな課題になるのか。
- ・外国籍の人やその子どもは増えており、多文化共生を学ぶことは非常に重要となる。一緒に勉強できる環境を小中学校では整えていきたい。そのための支援も事業として含まれると考えている。
- ・アメリカでは、定住希望者に英語の試験が課されて、一定以上でないとは住めないこととなっているが、日本にはない。行政としての考え方はどうか。私も海外で教育を受けた経験があるが、何のサポートもなかった。郷に入れば郷に従えということで、自分で学習していくことが本来の姿だと思うが。手取り足取りではちょっと納得できない。
- ・子どもが主人公なので、子どもへの支援は必要だと思う。
- ・自ら学ぶために外国に来た人と、親の都合で連れてこられた子どもとは大きな差があると思うので、委員のおっしゃる子どもへの支援は必要だと思う。どこまでするかは別問題だと思うが。
- ・外国籍の子どもが孤立してしまうのはかわいそうなので、支援してあげて良いと思う。日本の良さをわかってもらえると良い。
- ・障害のある児童を園で受け入れるのは大変。加配という制度があるが、公立と私立で条

件が異なっている。公立は、障害児が1人いれば加配が1人付き、最大3人まで付けてもらえるが、私立になると、障害児が3人以上でやっと1人加配が付く。この違いの根拠が何によるのか理解できない。

- ・No.31については、しっかりとした相談窓口が必要と思い記載した。保健センターですべて済めば母親は楽だが、それでは済まない場合が多い。また、庁舎と保健センターが離れているのに、更にたらい回しにされると余計にしんどい。総合的な相談が1か所でできると市民は安心。
- ・相談窓口が複雑になっていて、職員自身もどこに行けば良いのかわからないのは問題だと思う。
- ・情報提供にも関連する。
- ・課題⑤は冒頭の2つと相談窓口等のサポート体制がメインになると思う。
- ・子どもの障害に関しては、親が気付かないケース、気付いていても認めないケースがある。それらの扱いについても踏み込んで検討する必要があると思う。相談窓口がありますよということだけではなく、積極的に発見、アプローチしていく仕組みを考えた方が良い。
- ・課題⑥は、今の小・中・高生に対する取り組みになると思う。
- ・今の親ではなく、将来の親となる子どもへの教育に注力という表現は、今の親を無視するのかという批判を招くかもしれない。
- ・「今の親ではなく、」を削除しても構わない。
- ・学校教育が中心となるのか。
- ・幅広く検討していくことになると思う。体験学習は大事だと思う。中学生と園児との交流事業は非常に評判がいい。
- ・最近は一入っ子も多いので、非常に有効な機会だと思う。一部の園だけではなく、すべての園で実施できると良い。
- ・ボーイスカウトも良いと思う。体験学習やボランティアは非常に重要だと思う。分科会として提言することで、市民の意識に残る。
- ・冒頭の2つとボランティア活動などの取組みが求められていくのだろうと思う。提言として示していくことが大事だと思う。
- ・自分の子どもでいえば、きょうだいが多くは、上の子が下の子の面倒をみることができるので勉強になる。
- ・疑似体験でもそういう体験をしていくことが大事になると思う。

- ・一人っ子では、誰かの世話をする意識が芽生えにくい。少子化対策がうまくいけば、この問題はクリアできると思う。
- ・冒頭の1つ目は、「子どもの時からの体験的な教育の積み上げが必要」とすれば、後のカッコ書きが必要なくなる。
- ・⑦少子化対策は意見として出されなかったが、事務局として盛り込ませていただいた。
- ・まずは結婚することが先になるので、結婚対策をあげさせていただいた。
- ・なぜ結婚しないのか。
- ・束縛されるのがイヤという記事を見たことがある。
- ・色々な所で婚活パーティーがされており、結構参加者がいるらしい。
- ・少子化対策というと、どうしても手当や補助金の話が多くなる。色々あげたとしても、実現の可能性にまで突っ込んで考えていくのか。意見をみると、婚活と不妊治療以外は既に実施されている。
- ・事務局として少子化対策を入れさせていただいたが、この分科会に合致するののかも検討の余地があると感じている。
- ・県知事も少子化対策には非常に力を入れている。
- ・どれも大事なことではあるので、このまま残していただきたい。
- ・今日の意見を整理して、親会議に上げる案を会長と決めたい。会長の了承が得られた後に、委員の皆さんにお配りし、ご確認いただくことになる。それでご了承いただきたい。もう一度集まる必要があれば、その際にはご連絡させていただく。本日はありがとうございました。

(以上)

桑名市子ども・子育て会議 育てる側を育てる分科会（第2回） 議事録

日 時	平成26年7月3日（木） 午後1時から午後3時ごろ
場 所	桑名市役所2階 教育委員室
出席委員	伊藤直和、稲垣陽子、松岡典子、横山悦子、渡部美紀子（◎）（◎：分科会長）
傍聴人数	1名
会議次第	<ol style="list-style-type: none">1. 開会2. 議事<ol style="list-style-type: none">（1）検討の視点をもとに「課題」及び「その解決に向けた方策」の検討3. その他4. 閉会

1. 開 会

2. 議 事

(1)について

- ※ 資料に基づき事務局説明
- ※ 資料に基づき横山委員説明
- ※ ホワイトボードを用いながら議論を行った

《発言要旨》

- ・親教育プログラムは結構広がっているのか。
- ・探せば他にもたくさんあると思うが、私が知っているもの、桑名市で実践できる人がいるものをピックアップして持ってきた。
- ・NPは玉城町が一昨年にトレーナーを養成して、町の保健師や支援センター職員がこのNPに一生懸命取り組んでいる。玉城町長も非常に推している。それを県全体でやってほしいと県知事に話を持って行ったと聞いている。全県的には難しいので、市単位でやることになると言われている。コモンセンスプログラムは、虐待をしてしまった親向けのプログラムとして活用されていて、児童相談所の1つがハイリスクの親の再発防止に使っている。NPは完ぺきな親などいないという意味なので、それを聞くだけで親も気が楽になる。BPプログラムは赤ちゃん向けのプログラム。これは名古屋市の民間団体がやっている。また、名古屋市では、NPプログラムのファシリテーター養成講座を毎年市が予算をとってやっていて、養成された人が地域にいて、公民館などを活用しながら取り組んでいる。定型プログラムのメリットは、支援センターなどそれぞれの講座は1回のみのもので多く、参加者の課題はばらばらだが、このNPは回数や内容が決まっていて、効果が上がる根拠があるからやっている。なので、親がメンタルの部分で前向きに子育てできる有効性が認められているものをなるべくやった方がいいという流れがあり、日本でもぼちぼち進んでいる。桑名市としては、何人かいるNPのファシリテーターを活用するのか、1年かけて地域で養成するのか、考えても良いと思う。プログラムは多々あるので、どれがいいのかは実践地から話を聞いて決めていく。きちんとしたプログラムを提供することは効果があると世界的に認められているので、ばらばらではなく、名前の決まったプログラムをやるというのが全国的な流れとなっているので、できれば桑名市もこういう形でやっていった方が、受講者の効果が明白に出てくると思う。

先程の勉強と相談の機会について、実は②に親教育プログラムの導入が入っている。これを保護者が学びたいと思ってやるものに入れるのか、または、子育てに困難がある時期の予防的なプログラムとして導入するのであれば⑤に入れることを考えてもいい。年齢に応じて学びたいこと、学びたいと思う年齢は意外に遅く、幼児期。0～1歳は提供してもらえるものに何がわからないのかわからない、でもこれから子育てしていくうちに土台となる気持ちの部分はどうしていったらいいのかということ、未然予防のところ提供するプログラムと少し分けていった方がいいんじゃないかなと思っている。

- ・資料を改めて読んで、本気でやらなければうまくいかないだろうし、10～30年くらいの未来を見据えて、継続してやっていくものだと感じた。ボランティアという感覚ではなく、イメージとしてはリーダーを育てる、子育てリーダー・ママリーダーと私は思った。そのリーダーが5年後にそういうことをやっていけるような、長いスパンで考えることが必要と思った。継続したプログラムで、まずはリーダーを育てましょうという発想は良いなと感じた。1つ質問だが、子育て応援ボランティア養成講座ではどんなことを勉強するのか。
- ・年間8講座あり、最初に市の子育て状況の話をし、次に地域での支援の方法、後は実際に絵本を読んだり自分たちで学んだりする講座。乳幼児の子育て情報であったり、地域支援者としてこれから大切な役割を担うことになる。
- ・子育てが終わった人というよりは、もう一息高齢の50・60代の方が多いか。
- ・若い人もいらっしゃる。
- ・そのあと何をするか活用法が定まっていないので、何年やってもボランティアのままだし、自由意思だし、委員がおっしゃるように、プログラムをちゃんと提供できる人の養成というのを市で取組んでいく方が、その後も明らかに有用性があるプログラムを提供できるのであれば良いと思う。名古屋市の方法を採用のかはわからないが。
- ・地域の資源をいかに活用できるかになる。リーダーとなると子育てサークルなども有効な資源となるかも知れない。
- ・自由意思の母親たちのサークルを作り上げて、やりたいときだけやって、いつ解散しても良いようなサークルがあっても良いと思うし、別の形でサークルのリーダーたちを集めて、長く活動してくれる人を養成してもいい。ビジョンを持って自主的にやるということがそもそも無理。自分の子どもの年齢に合わせて集まるというのが普通。それ以上をめざすのであれば、違う仕組みが必要。今までの流れをみると、自主的にというのは難しいと思う。

- ・子育てサークルはそれぞれに目的があって集まっているので、自分の子どもプラス自分が楽しいが基準になる。もうちょっと意識の高い、ボランティアではなく子育てを応援する立場として確立できる部分を養成していかないと、養成講座を開いてもいつまでたっても誰も来ない。身分保証のようなもので養成しないと、ボランティアばかり作っても意味がない。コモンセンスもNPもそれぞれ対象者が違うので、共感できる、認め合うであればNPだし、コモンセンスは具体的にこういう時にどうしたら良いですかというようなところなので、①・②・⑥の全部をきちっと確立していけば、各地域でリーダーを養成していけば、すぐには無理でも何年か経って養成講座で学んだ人が次リーダーになったりとかっていうふうに動いていくことができるかなと思う。
- ・ライオンズやロータリーからうまくお金をもらいながらやることは可能じゃないのかなと思う。木を植えるよりこっちにお金を回してほしい。
- ・社会資源を行政がどう活用していくか。社会資源となるようなサポートにどう関わるかだと思う。
- ・民生委員は誰を対象に何をしているのか簡単に教えてほしい。
- ・正式名称は民生委員・児童委員。市内に252人おり、年齢層は高い。大きく言えば地域の見守りの役目があり、困っている人がいれば相談を受けるなどしている。
- ・民生委員に困ったことを相談する場合、行政から「この人のところに行ってください」と民生委員に頼むのか、民生委員が自発的に困っている人に声をかけるのか。
- ・両方ある。どちらかという、普段から民生委員が地元を把握しているというスタンス。
- ・その地域に課題があれば、定期的に面談していると思う。課題の多い少ないによって頻度は違うが。時々新聞等で「民生委員は何をしていたのか」という批判めいた記事があったりするが、あれで民生委員を責めるのはちょっとかわいそうな気がする。
- ・教育・子育て以外にも、その人たちの社会生活をサポートするのが民生委員ということか。
- ・行政と地域のつなぎ役を担っている。最近はひとり暮らし高齢者を把握したり、虐待関係の部分も受け持ってもらっている。非常に幅広い。
- ・⑤の部分は民生委員でやれる範囲なのか、または手落ちの部分で何か仕組みが必要なのか、現実的にはどうか。
- ・民生委員も関わってくる。
- ・民生委員の他に市内には24人の主任児童委員がおり、0～18歳の子どもおよび子育て家庭を対象に、相談にのったり、サロンなどの子育て支援をしたりしている。どちらかと

いうと、民生委員よりも親子世代に近いかなという部分。

- ・主任児童委員で⑤をフォローできるか。
- ・要保護児童地域対策協議会で検討中の課題で、子育て家庭を地域で見守っていこうというところで進めていこうとはしているが、個人情報保護法の壁があり、なかなかその辺りがうまくいかない。
- ・一部分は担っていると思う。
- ・今も担っているが、それは情報が降りてこないまま自分たちが地域で出会った家庭とのつながりをつくっていくということなので、出てきてくれるところとはつながれるが、出てきてくれないところとはつながりにくいし、訪問もできないので、グレーゾーンだったり、問題を抱えているのに表に出てこない家庭とのつながりは難しい。
- ・そこはぼっかり空いているということか。
- ・そこは地域とつながりがうまくいかない。ひとり親家庭もそういう人達だが、地域とのつながりがうまくいかない。
- ・保健センターの事業で4か月までの全戸訪問をやっているのですが、それが全部網羅するという形で、でも地域の民生委員たちにその情報が出るかという点で難しい。全戸訪問はローラー作戦で90%以上やっているが、民生委員との情報共有がうまくいっていない。
- ・虐待が起こってから気付くという状況。
- ・事業の目的は同じなのに、やっている部署が違えばらばら。それを一元化するのが要保護児童地域対策協議会だが、そこに集約しきれていないのが課題。
- ・法律の壁がある。
- ・我々も情報の取扱いに苦慮している。気軽に橋渡しすることは余程のことではない限りできない。
- ・1つの完璧な制度でうまくいくわけではないということか。様々な網の目でみていくのを作っておかないと、必ず抜け落ちる部分が出てくるのはしょうがない。
- ・今話題になっているのは発見するということの目的。発見の次には、お母さん達がちゃんと子育てできるようにすること。見つけるだけではだめなので。そこに虐待などの予防策を当てなければいけない。それでも次のステップに行った時にやっちゃう人が出てくる。どれだけ目を細かくしても、抜け落ちてくる人が出てくるので、地域でどうするかを考えなければいけない。つながりや連携も課題。
- ・色々な地域とのつながり、保護者と地域などとのつながりができても、地域とのクロスがなかなかできないのが現状だと思う。昔からできていた歴史あるまちはそういうことがで

きていたと思う。今でも田舎なんかは割と住民同士が互いのことを知っている。新しくできたまちではそういうことが難しい。つながりというのは対策が非常に難しい。

- ・目的ではないかも知れないが、まず、ちょっと課題を抱えてしまいそうな親を早期に発見するためにどうしたらいいかということと、そもそも親の養育能力を、今は本当に経験というところで小さい子をみる機会がほとんどないという形で、養育能力を上げるためにどうするか。それは思春期の子どもたちも含めて、これから親になる親たちも含めて養育能力について、それこそ少子化にも関わってくるかもしれないが、そういうことの目的というのが出てくるのかなあと思う。
- ・番号を振り分けてあるのが、1こずつより、共通で何番と何番が1つの解決に向けた方策でとつながっていくような感じがする。個々の活動が横につながっていなかったのも、そこそこにしか進んでいかない。大きく結集させていかないと、今までと同じでは意味がない。
- ・委員が分けたこの2つがすごく良いと思う。親の養育能力を高める、早期発見。問題が生まれる前に芽を摘む感覚。これはちょっと行政用語になるので、お母さん側からみると、自分に自信を持って子育てができるようになるとか、早期発見というのは悩まないでも相談できる場があるみたいな。親側からみた必要なものを考えていくと面白いのかなと思う。
- ・早期発見するというと、確かにこちらの視点という感じがするので、親側からとしては社会とつながる、地域とつながる機会をもらうということ。
- ・悩みが相談できるみたいな。
- ・昔は地域の公民館に、体重計を持って、保健師だったか健康推進員だったかが毎月来ていた。何となく子育て中は、何故だかわからないが、特にミルクを飲んでいるときは体重の増減に一喜一憂する毎日だったので、そういうのが地域でつながるきっかけづくりになっていたのかなと思う。今もその活動はあるのか。
- ・母子健康推進員のことか。
- ・今、母子健康推進員の活動はどうなっているのか。
- ・ある地域では、主任児童委員全員が母子健康推進員になっている。主任児童委員の活動で体重計を持って、毎月行っている。
- ・高齢者が結構いるので、今は骨密度を測ったりしている。
- ・桑名市は割とそっちの方に移行していつている。
- ・健康推進員が子育てに力を入れている地域も3か所くらいある。

- ・何か1つのツールをきっかけづくりにお母さん達に気軽に来てもらって、そこに来たお母さん達で同じくらいの月齢だったら、この地域で同じくらいの年齢の子を育てている人がいるんだというのがそこでわかったり、いろんな産院で出産されて、里帰り出産だったりするけど、でも育っていくのは地元地域なので、そこでのつながりをつくる窓口のきっかけづくり的なものに、講演会をします、勉強会をしますと言ってもなかなか、相談会ですって言ったって、構えていたって相談ですという人はなかなかいないと思うので、何かそういうものを使ったところからのきっかけづくりで、この早期発見、地域でのつながりをつくるという部分ではできていくんじゃないかなと思う。
- ・相談に来る人はサポートできるが、来ない人が課題。学校でも同じだが、保護者会をやっても、来てほしい人はなかなか来ない。そこを分けて対策を考えていかないと難しい。
- ・相談に来た人の情報を全戸訪問の情報を持っているところに上げていけば、体重計を持っていく訪問につながったりとか、それぞれやっていることは別々でも、どこかで1つの情報として集約できれば、いろんな情報がそこに集まっていけば、その家の様子などがわかっていくんじゃないかなと思う。
- ・集約が難しい。
- ・そこが一番できていない部分。
- ・やっぱりアピールになる。どこまでやるか。民生委員は家の前に札が貼ってあるのか。
- ・今はもうだめ。貼っていない。貼ってあるのは自治会長くらい。
- ・何故だめなのか。
- ・民生委員の中にもPRしたい人と、ひっそりしたい人、積極的に表に出るのを控えている人などがいる。
- ・その地域で出産した人が、地域の民生委員についてどうやって情報を得るのか。
- ・どこに聞いたらいいのかわからない状況。
- ・保健センターでもないのか。
- ・保健センターが地区の民生委員の名簿を持っているわけではない。
- ・何にも有効に使われていないということか。
- ・小中学校はその担当の民生委員の持っているが、市全体で揃っているのは市と社協くらい。
- ・母親が出産しても地域で支えてくれる人がいる情報もない。
- ・ある程度その地域に住んでいる年配であればわかるが、特に若い人では絶対わからない。一番必要な人が一番わからない。

- ・子ども110番みたいに親子110番をつくって、親子でどうぞみたいなのがあるといい。民生委員バッチみたいなものもあるといい。
- ・写真入りである。腕章もある。活動する際に着る揃いのエプロンもある。
- ・マタニティのときにつながったらどうか。
- ・保健センターに何度も提案しに行ったが、相手にされない。
- ・やはり意識。ボランティア感覚でやっている限り発展性はないので、それはそれでやってもらい、リーダーを育てる感覚でいないと。
- ・菰野町では地区別に行って、そこに民生委員が入る。妊婦の時に。それでつながりができる。出産後の情報というよりも、産む前にその情報が得られた方が、そこで会話をしているんだし、電話しやすいし、SOSを出しやすい。もったいない。
- ・地区によって熱が違う。地区によっては、民生委員が主導になって子育てサロンをやっているところもある。
- ・今回、要保護児童地域対策協議会が全戸訪問を実現するよう頑張っているのだから、そこはそれで。
- ・四日市もそうだが、民間なり民生委員に任せて、第一次予防なので全戸ローラーは民生委員にまわってもらうようにして、そのシステムだけきちんと使ってハイリスクが漏れないように、あるいは第一子、第二子で課題のある人は民生委員ではなく、保健師が完全に情報があるのでこれはいいですと保健師が行き、新しく生んで過去にも何も課題がないような一般的な人は民生委員に全部回ってもらうようなシステムにすれば、改めて民生委員ですとどうやってつながろうというよりも、1つの事業をそこに担ってもらう。随分準備がいると思うが、それさえしておけば、1つはそれを進める必要があるかも知れない。民生委員は大変だが、ぜひ。社会資源って実は、本当に活用する意識と、資源が資源となるかどうかという評価というか、ちゃんとしたきちんと見立てをして、使える社会資源はやっぱり行政が使った方が低コストというか、予算的には良いと思う。こんなにたくさんしたことにはかけられないし。ここら辺をちょっときちんと見立てをしていく面も必要だと思う。市民側としてはこんな資源があるのにどうしてと思っている人たちがひょっとしてしているとすれば、それはもったいない話で、そこは乖離していたらだんだんモチベーションが下がるし。いかに意欲のある人、高齢者の孫育てもそうだが、それを本当に活用する場があって、やっぱり役に立ったというモチベーションを高めていくと継続もするし、というふうに全体的にみていく必要があると思う。
- ・縦軸をこの①～⑦で、横軸を養育能力・早期発見でこう、全部網羅するようなプログラ

ムを考えていくと良いような気がする。

- ・情報の提供方法だったり、ひとり親への支援だとか。
- ・この間は、きらきらで父親を対象にした絵本の読み聞かせの講座があった。
- ・0歳は特に、父親がどう関わって良いかわからないというパパたちの想いがあったみたいで、結構最初は動きが恥ずかしそうだったが、最後はみんな立ち上がってやっていた。機会というか、心も開放して子育てって楽しいという経験をパパたちにもしてもらうのは、あれはよかった。父親は個で、地域とのつながりもほとんどない。パパの中には奥さんに行けと言われてしぶしぶみたいな人もいたけれど、行ったらパパが一人で乳児を連れて来ていたパパたちとも交流できたし、あれはよかったなあと思う。
- ・あれで、それこそお父さん同士が横につながり、お母さんってすぐにくっつくですかと話しかけて電話番号を聞いたり色々できるが、お父さん同士はなかなか喋れない。お父さん自身は他のお母さんとかには話せるが、お父さん同士は意外に疎遠というか、何を喋って良いのかわからないのかも知れないのでつなげてあげると良いのかなと思う。
- ・0・1歳児でパパたちがつながっていると、その次の、例えば保育園や小学校でもパパたちがつながることに抵抗感がなくなるので、子ども会がないとしてもそういう一番大変な子育てを共有するという経験をパパさんたちにも、ひとり親ということも勿論問題としてあるが、あれはやはり必要なんだろうなと。なかなかある一定の年齢からいって、お父さん同士何かしましょうと言ったって、なかなか抵抗があってできない。
- ・最終的に提案シートが書けるというのが今回の目的か。
- ・最終的に事務局でまとめさせていただき、会長や委員の皆さんにご了承いただき、会長に親会議で報告してもらおう。一字一句まとめきるところまで行かなくても構わない。
- ・解決に向けた方策はたぶんもっとここを整理した方がいいかなと思うが、その次の具体的な事業・取組みということで、今いくつか出てきていたプログラムの話だとか、あるいは民生委員の更なる活用というか、そこをここに事業として盛り込んでいって、赤ちゃん訪問に結びついていく方向にいくつかは入っていくと思う。そうすると本当に実現性という面ではいくかなあという気がする。
- ・早期発見ということは、発見する何かがあるということだから、もう起きているということになる。予防というのをもう1つ。
- ・グレーゾーンを含めてリスクの層の早期発見ということで。発見だけではいけない。
- ・年齢、0歳児と幼児と学童といってしまうと、それぞれというと、やれることを具体的にに入れるのか、あるいはさっき言った早期発見のために何をするかという観点でやって

いった方が。

- たぶん年齢別で分けるのは今までやってきた。たぶんそこで抜けている部分というか、その親の意識が「うちの子小学校を卒業したので、私も卒業します」みたいなのを作ってしまっているのかなと思う。
- 1つの対象を親とした時に、親の養育能力を上げるということが1つあって、これとは別に困っている親をどう救うというか、見つけてくる対応ということ。たぶん親の養育能力の中に年代別、子どもの年代別で分けていく必要がある。
- どれだけ超お節介親を作るかということ。
- 年齢によって、0歳はやっぱり何でも効果的。0歳に軽く支援しておくのがすごく楽。
- それなら妊娠期だけ。
- 幼児期でちょっとつまずいてしまった人はこのプログラムで、できた人はこのプログラムで、小学生になって難しい思春期になってからはこういうプログラムがあつてと、それが年齢別にあるのがのぞましい。
- そのとおり。リーダーを養成することも踏まえて。
- 0歳のお母さんに養育能力をあげるために何かすることと、思春期で問題が起きた時とは全然違う。だからその、子どものステージに合わせた。0歳だったらBP、NPだったら5歳までとか。
- 養育能力をあげるのは、思春期の時にもう、親育ち教育を県と一緒にやっていたことがあるが、その子どもたちが親になるような教育プログラムをこの時期にやるというのが良いとか。桑名市でどういうことをやっているのかというのが、本当にこれしかないのか、これだけなのかわからないが、図として入れ込むのか。
- 育てる側を育てる訳なので。
- 少しイメージは今まで話してきたことを入れ込む段階において、ちょっと整理ができるかなという感じだがどうか。ただ、方策が入ってくることになる。
- 養育能力を上げるための情報提供だったり。
- そういう情報提供とかをあそこの別枠に何を持っていくかということで、項目を別枠で取ってやっていくとそうするとつながらないか。
- シンプルで良いかも知れない。本当に養育能力を上げるために何が必要かという枝葉を、いっぱいくっつけていく発想もあり。
- 最後の親育ち教育が⑧の少子化対策になる。
- ⑥あたりが1つ入る。少子化対策には子育て支援の充実を入れなければいけないので。

- ・課をみてわかるが、教育の視点と福祉の視点が結構大変なんだろうと思う。
- ・そういう縦割りの弊害を、取組みを通して1つにしていく。
- ・市民の側からすれば全部一緒。
- ・子ども・子育て会議が縦ではなく、横のつながりで、子ども・子育ての高い理想を貫くために何をしようかという話し合いのわけでしょう、きっと。
- ・あそこで保健センターの母子保健事業が整理されて入ってこない、単発になってしまふ。一番早期の発見とか、妊娠期から考えても唯一医療機関と保健センターなわけで、そこから子ども・子育ての本質は妊娠期の母親支援からなわけなので、それを入れていかないと。
- ・新しく主任児童委員になった人が一番驚いたのはそこ。保健センターと子ども家庭課とのつながりが「えっ」って言う。子育て中のお母さん達もきっと別物だという認識。
- ・もう1つの図式でいうと、1つあって、リスク別の支援者というのがあって、ここがハイリスク、ここが低下、ここら辺がボランティアが関わる、高については専門職がかかわるというのがあって、じゃあ、ここはどうなのかというと、ここはパラプロフェッショナルといって、準専門職という言い方。そうすると、さっき言ったプログラムの提供者だったり、もし入れるとしたらさっき言った子育てリーダーで非常にトレーニングを受けていた人達が、リスクによってこっちが高いのだが、親の支援で誰が担うかという、これが一番やっぱり良いんだと。ちょっと遡ると、鈴鹿の虐待死事件があったと思うが、あれは実は高リスクの人を民生委員が関わっていた。それが適切だったかどうか検証されたかどうかかわからないが、やはりそれぞれの役割は、それぞれの人たちがまっとうしていく、そしてここは必ずつなげるという形で、専門職あるいはパラプロフェッショナル、民生委員はここら辺の中間かも知れないが、地域住民がやる所、パラプロフェッショナルがやる所、専門職が責任をもってやる所と分けていくのが流れなので、基本的な考え方なので、それをここら辺でも養育能力を上げるために例えばもう1つやるとしたら、ボランティアが何ができるかとか、一番困難を抱えそうな幼児期のお母さん達にはパラプロフェッショナルがプログラムを提供し、ボランティアは地域で見守り、専門職はどうしても困ったときに介入するんだというような役割が、本当に相当これを図式化したら、全国に発表できるくらいになると思う。
- ・おもしろい。パラプロフェッショナルを何人育てるとか。
- ・海外なんかもう完全にこれを厳密にバチンとやられている。それ以外のことはしない。徹底して。

- ・もう1つ、そういう意味でも本当に時間軸をみていきたい。10年後とか、最初からパラプロフェッショナルを育てられないので、まずは親の養育能力をあげて、目標として虐待ゼロとかがあって、その次に、じゃあ自分がボランティアとして何かやりたいわという人が出てきたり、もうちょっと行くところでパラプロフェッショナルが出てきたりと。
- ・地域住民が社会資源として段々ステップアップして、地域の本当の担い手になれるということも定義していくと目標になるかも知れない。関心の高い人はいるから。
- ・菰野町がそういう取組みをしていて、お母さん達がサークルでつながったらそこがドンと上へ上へ、後は養成をする立場の方にも進んでいくという。
- ・結局菰野町は、そこでちゃんと活動ができた人を最終的にはハイリスクの保健師との訪問、虐待家庭の訪問まで連れて行っている。キーパーソンのちょっとレベルの高い人。そういうふうにしてやっていくと意識が随分高く、あれも10年くらいで育ててきたので。
- ・ここでどこかからお金をもらうのもあり。
- ・そこは身分保証がきちっとしていないと、ボランティアじゃないよというところで関わり方が全然違ってくる。
- ・意識が違う。訪問1件につきで予算もとってあるし。桑名市はどうか。
- ・女性の社会進出みたいな、存在意義みたいなものも出てくるし。
- ・今日の新聞で女性の社会進出順位をみたら、三重県は低かった。
- ・パラプロフェッショナルは良い言葉。
- ・支援センターでの預かり合いはどうか。
- ・預かり合いというか、一緒にみるというのはある。自分の子1人みるのも2人みるのも一緒ということで、昨日のファミリーサポート養成講座に参加している人もいた。
- ・今は自分の子どもだが、段々と少し視点を変えていってもらえる仕掛けが必要。
- ・子どもが小さいうちは必死だと思うが、2〜3歳になって、仕事には行かないけど子育て中の親子をサポートしたいなという人がリーダーとして先輩ママになればいい。
- ・ちょっと年齢的に無理だと思う。やっとな自分の手が空いたんだから、まず自分の楽しみだと思う。それを超えてっていう。逆に小さい子がいる間に、要するに大体プログラムをやっていくと意識はすごく変わるので、そこで今じゃなくともやっぱりっていう意識の変革は早い方がいいと思うが、そこがすごくお母さん達の意識が違っているので、そこをしておけば違うと思う。
- ・妊娠中からっていうことだと思う。
- ・そうすると客観的に自分の子育てをみられるという機会があるとよい。

- ・客観的にみることが大事。密着し過ぎると悩みばかりになる。
- ・そうすると人への意識もあるので、何かしようと思う。自分で一対一だけでも目一杯で、ドロドロのグチャグチャになっていったら、その子育てが一段落したら、そんな人様のことなんかとんでもないと、やっとコーヒーを1人でゆっくり飲めるのにとか、そんなレベルになる。
- ・悩んだときにどうすればいいかを知っていたりとか、本当にちょっと上から自分の子どもをみても良いんだよというところを知っていると、それだけ楽に子育てができる。
- ・鉄は熱いうちに打てではないが、大変な時に関わりを1つ持ってあげた方がいいのかも知れない。予防にお金をかけた方が予算的に大丈夫。出てしまってからのコストの方が大量にかかる訳で、コスト的な問題だけでなく、その子どもの育ちがすごくゆがめられてしまうので、やはり早くに。桑名市はとにかく0歳児のプログラムが充実していて、そこで親の育児能力を上げているんだって言って、その後随分楽になったよねというのが出れば、私はそっちの方が。後々起こってしまったことに対する対処療法ではなく。
- ・0歳で大変だったことも、気持ち的には1歳、2歳、3歳児になっても、ドンとしてたらいんだよというのがわかっていれば、その小さい悩みくらいは乗り越えていけるような力が付くのではないのかなという。
- ・つながる抵抗感がない人の方が、非常に後は早く、自ら発見してもらえることになる。それはやっぱり早期。
- ・全国でそういう取組みはあるのか。
- ・やっている。さっき言った民生委員につなげることもそう。
- ・各産院ではこじんまりとやっている。桑名市は出産する場所が少ないので、できているかどうかわからないが、他の市町で産院が多い所は、自分のところで産んでもらわないといけないので、いろんな取り組みをしていて、マタニティ時代の時からそこで同じ月に出産するであろうお母さん達のつながりをどんどん作っていくと、きっかけ作りはそこだけど、産んでからは自然とそこでお母さん達がつながっているので、そういう部分ではちょっと桑名市は遅れていると思う。どこかの病院で、シティホテルでディナーよりもっと違うことにお金を使ってほしいという声を聞いている。
- ・妊娠期から関わることによって、親が育てるベースを作っておいた方がいい気がする。
- ・パパに対しても、ママに対しても、おじいちゃんおばあちゃんになる人も、家族が育てるんだという認識か。
- ・それをしておいた方がたぶん楽だと思う。

- ・嫁・姑の関係的な部分であったりとかも楽になるかなっていう。
- ・とにかく広くのべつ幕なしではなく、ポイントを絞ってという辺りでは、それこそ妊娠期から0歳児の早い時期に。
- ・たぶんその時代が、一番みんなが学ぼうって気持ちが高まるんじゃないかなって思うので。
- ・0歳良くなって思う。やっぱり赤ちゃんで初めて、第一子だったら、産んだときはやっぱり最初は頑張ろうってどんなお母さんでも思って、学ぼうって思っているし、やっぱり今は共働きのお母さんが多いので、0歳は家にいられるので参加できる。働いてしまうと平日昼間のプログラムにどんな良いものがやっても受けることができないので、やっぱり0歳のうちに充実させると、仕事を持っているお母さんでも参加できるし。
- ・これはちなみに保健の管轄になるのか。
- ・母子保健の管轄。
- ・そうなるるとそこへは教育は絡んでこない感じになるのか。
- ・教育は、その子どもが親になったときにという視点を入れていかなければいけない。親の教育というと現親の教育もするが、子どもたちが親になるあたりの手当ても必要と考えているのか。
- ・それで今子ども家庭課と協力して、学校でそういうプログラムをやっている。
- ・学校では、結局将来の親育て、今の男性を含めて、男女共生の社会をという形で今やっている。すべてその観点で。
- ・養育能力を高めるために早くからやろうよというストーリー。ただ、ここの部分で何か1つプロジェクトとしてできることがあるのか。
- ・新規の事業に取り組むことと既存の事業は事業としてやっているんだけど、まだちょっと足りない側面があるよというのは盛り込みながら強化したりして、この事業を使ってこれってできるよねっていうふうに入れていけばいい。例えば4か月までの赤ちゃん訪問とか、養育能力を上げる母親教室の機会、あるいはマタニティセミナーとか、そこにそもそも子育てのことを入れる内容を1つするとか。
- ・長い目で見て全部網羅できればと思うし、たぶん個人的な経験として、妊娠期は言われてもまだ雲をつかむというか、抽象論で終わりそうなので、実際に親っていう感覚は生まれた時からのリアリティがあると思う。そうすると、2014年としては2つ走らせても良いのかなと。ここの部分とドンピシャ親として何かこうやるような、養育能力を上げるような、最初はどこがいいのかわからないが、こういうところから手を付けるのも1

つかな。後はやはり、ぜひこのパラプロフェッショナルをめざして早期発見できるような育成を何か。

- ・市民大学みたいなやつで今は他のプログラムをやっているけど、何かそういうので、若干授業料を払ってもいいけれど、将来的にそういうパラプロフェッショナルをめざすための講座みたいなものを設定するとか。
- ・名古屋市方式で養成するか。
- ・名古屋市はどうやっているのか。
- ・市がNPのファシリテーター養成講座をやって、その人たちに公民館で全部提供してもらおう。
- ・コモンセンスもそう。私も応募しようと思ったら、名古屋市民しかダメですと言われた。
- ・名古屋市民は市で養成するので、本来ならお金をもらってやるのだが、何万円かかかるのを市が払ってくれるので、タダで提供している。
- ・それは虐待防止につながるし、すべてのことにつながるということで。
- ・それはすごく良い。
- ・それをやってしまうか。玉城町はそれも見ながらファシリテーターを市が講座をやって養成して、その人が実際にやって、その人のうちの1人は健やか親子の会議にまで出てきているし。
- ・たぶんその中でも「ボランティアだわ」という人とか、パラプロフェッショナルの人と分かれると思うので、まずは数を増やさないとというのがある。
- ・ただ、NPをやる人だけではなく、もうちょっとこの辺、つながりをやるとか、例えば授業参観に行ったら気になる親3人に声をかけるとかも取組みとしては大事か。
- ・今の事業の中で見直せるところもあるかも知れない。
- ・結構内向きでやっている事業を外に向けるとか。
- ・ここままで、報告書をまとめられるのか。
- ・ここまでのことをまとめ、メール等でご覧いただいて、その上で会議がもう一度必要とおっしゃるのであれば調整したい。
- ・やっぱり子どもの年齢に応じた親の支援ができていないという課題はみられた。横軸を子どもの年齢にするとしたら。それを課題としてあげてもらおうと、その先が出てくる可能性はあるかな。子どもの年齢を入れて、適切に学ぶ機会がないという課題があるわけなので、親はそれを望んでいると。特にここら辺が弱いから、じゃあそこについてはこれをやりましょうという形になればいいのかも知れない。さっき言ったのべつ幕なしで

はなく、弱いんだというのがやはりポイントとして出てくれば。

- ・この課題が2020年にはクリアになっている、これはある意味、課題イコール裏にすると目標にもなる。だから2020年には保護者同士がつながっている、相談・勉強、何か学びたい機会がある、ひとり親への支援が何か明確になっている、情報提供がわかりやすい形でできているとか、というのが2020年の目標として。
- ・見る人にとっては、解決に向けた方策は漠然としている。
- ・ある程度子ども以上しか接していないので、自分の子育てのときにはそんな場面もあつたなあと聞いていた。
- ・イメージ図について教えてほしい。あれを見るときの対象としては、1人の親子をずっとみていくイメージなのか、年代別で切ってみていくイメージなのか。例えば学校期、思春期だけ抽出してしていくのか、もともと親子をずっと追いかけていくイメージなのか。
- ・ぶちぶち切れるわけではない。
- ・ひとりの子どもを1年生から6年生までずっと追いかけてみていく捉え方もあれば、行政では通常、年代だけを抽出して、それを対象として色々な業務をやる。例えば先の保健センターや福祉部門の流れとか、そういうのも実は抽出して対象を決めてサービスを提供するイメージがある。今回のイメージ図ではどちらを採るのか。
- ・親としてはずっとみて行ってほしい。施策として分けたいのはわかるが。施策は切れても仕方がないが、それをつなぐ役割としてパラプロフェッショナルがいるとおもしろい。
- ・それか、全体で図になっているので、仕事で支援している側としてはこの形でここからここまでだけど、次で困っている人がいたらこういう支援があるというのが図だったらわかるので、そちらにつなげばいい。下の方で困っている人がいたら、こっちにつなげばいいとか。
- ・意識はやっぱり持つべきだろうというふうに、もちろん対象者は決まっているので、でも子どもっていうのはずっとこの流れで1人が成長していくんだ、そして家族も成長しているんだという視点を持つという意味では、こういうふうに切らない。今回の子ども・子育てという形の基本的な考え方に則るとしたら、成長しているんだというふうに見ていく。
- ・図式化することで、この部会がイメージすることができてきたと思う。一度事務局でご意見を整理して、皆さんにご覧いただきたい。
- ・もう一度分科会で集まるかも知れないが、そのまま全体会になるかも知れない。

- ・まとめたものをみていただいて、ご意見を聞いてから判断したい。
- ・まとめたものは、次回第3回目の親会議で各分科会からご報告いただく。
- ・短い時間にたくさんの貴重なご意見をいただきありがとうございました。

(以 上)

桑名市子ども・子育て会議 地域の子育て力を育てる分科会 (第2回) 議事録

日 時	平成26年7月4日(金) 午後2時から午後4時ごろ
場 所	桑名市役所2階 教育委員室
出席委員	伊藤香、加藤隆明、高橋恵美子(◎)、津田浩二、濱内洋孝、水谷美保 (◎:分科会長)
傍聴人数	1人
会議次第	<ol style="list-style-type: none">1. 開会2. 議事 (1) 検討の視点をもとに「課題」及び「その解決に向けた方策」の検討3. その他4. 閉会

1. 開 会

2. 議 事

(1)について

※ 資料に基づき事務局説明

《発言要旨》

- ・①地域住民と保護者との交流の不足について、ご意見等があればお願いしたい。
- ・①②は連携しているので区切らない方がいい。③は財政的な部分の話もできるのか、学童には運営体も絡んでくる。⑤はもっとお金について色濃く話したと思う。
- ・委員のおっしゃる通り①②は連携している。また、全部に共通しているということで、「市の財政を考慮し、お金をかけずに知恵をしぼった工夫が必要」を最後に記載した。これはすべてに係ってくるものであり、これに集約されると思う。財政が厳しいのは桑名市に限ったことではない。児童館や学童が必要なのはわかるが、それをどうやってお金をかけずに知恵をしぼるかがこの分科会のポイントになると思う。とりあえずこの分科会の使命は、子どもと保護者を包む地域、行政、大事な資源である私立園、これらがどうやって手をつないでいくかを考えていくことになると考えている。
- ・⑤「民間（私立園等）と行政、地域との協働・交流」は、解決に向けた方策であって、課題として捉えるとわかりにくくなってしまうと思う。私立園が抱えている課題や、行政の取組の問題などは地域ごとに違うと思う。それを明確にした方が、解決策が考えやすいと思う。きれいにまとめるのではなく、今抱えている課題をはっきりさせ、それを解決する方向に持って行った方がわかりやすい。その方が、できること、できないことがはっきりすると思う。委員に具体的な表現方法の案があれば発言してほしい。
- ・そこまで深くは考えていない。行政との協働という表現では、具体性がない。費用的なことやこども園などもっと深いことまで話したい。その根っこの部分を話せるようにしてほしい。⑧を事務局が追加したい気持ちはわかるが、突然こんなものを付けられても困る。事務局は何をやっているのか疑問に思う。
- ・少子化対策を盛り込みたいのは漠然とわかるが、この課題の背景には具体的に何があるのか説明してほしい。
- ・それに加えて、過疎化の地域はいっぱいあって、テレビでもよくやっている。子どもを育てるためにはすごく良いまちがありますよとテレビでいっぱいやっている。であれば、

ここの少子化対策はこんな漠然としたものではなくて、行政がどれだけの考え方を持っているのか、ここで委員会なり分科会にくっつける内容じゃないでしょうか。そのために少子化も含めてこの子育て会議があるんじゃないのかなというふうにも思うし、いたいこのお題は何でひっつけてきたのか根底を教えてほしいし、この子育て会議の中でもこの一課題としてあげる内容なのかなと。いろんなことをやってこの少子化対策も含めてこの会議ではないんですかという。何か、どこが何を言いたいのか、どうしてほしいのか僕にはよく理解できなかつたので、例えば過疎地の例がいっぱいあるのであれば、事務局が調べてこんなことがありますよと。今テレビでやっている内容だけよくみると、補助がすごくいいところには人が集まっている。それであれば、上の中でいっている私立と公立の格差もいろいろあるし、いろいろなものもある。桑名市の財政状況もある。その中で、この少子化対策だけこうやって出してきて、我々の補助金をどれだけ机の中に入れて付けれるんですかという話にもなってくるし、もうちょっと何か、意図するものなり、桑名市はいったい何がしたいのか、もう1回説明してほしいなっていうぐらい、ちょっと疑問に思った課題かな。

- ・社会システム的なことは別として、私の住んでいる地域は、子どもが4人いる家庭が多い。蛸塚という地域だが、何故子どもが多いのかを調べてみるのも1つの方法かもしれない。
- ・少子化対策を課題とするなら、もうちょっと情報収集する必要があるということか。
- ・子ども会があるし、地域住民の交流も非常に盛ん。高齢者の多い地区だが、高齢者は近所の子どもを放課後に自宅に招いて、折り紙を教えたりしている。そういう情報は、そこにいるお母さん達がよく知っている。ピンポイントの調査をやってみるのも1つの方法だと思う。
- ・自由記述のニーズには、課題の①②に関する意見、ニーズはまったくない。①②は我々が憂いていることであり、これを検討することは時間の無駄だと思う。7つの課題のうち3つに絞ると、③は学童のことであり、十分にニーズがある。④は抽象的すぎていまいちわからない。⑤は幼保一元化も絡むし、制度や金銭の話が出てくるので、これに関しては自由記述が多い。⑥は具体的な提案が自由意見にあるので、この分科会で時間を割く必要はない。担当部局が検討すれば良い。⑧は医療の充実、子育て家庭への給付、各制度など各自自治体の財政による。各自自治体の取組みと比較すれば、どうしても桑名市は見劣りする。机上配布資料では、実施の見込みなしと切り切られているものが多い。ニーズがあるのに簡単に見込みなしと切り切られては、我々の存在意義がどこにあるの

かわからない。ニーズ調査を何のためにしたのか。

- ・ こういうところを突っ込むとうるさいと思われるかもしれないが、実際にはそういうところに本当のニーズがあるのであって、その辺を踏まえて認定こども園になったときに、逆に認定こども園ができるぐらいだったら、預けたくないから私立に入れるわという人も多い。保育所の次年度の入園募集は9月頃だったと思うが、巷の1歳児あたりの保護者からは、長島の公立幼稚園は認定こども園になるのか質問を受けたりするが、去年の説明会以来何もなくて、いったいどうなっているのと思っている人が多いと思う。パブリックコメントでも300件くらいはここに出ているような意見があったと思う。3年保育や長時間保育に本当のニーズがあるはずなのに、どの分科会をみてもその辺がはぐらかされていると感じている。
- ・ 机上配布資料は、現時点での市の回答。表紙にも、今後変わり得るものという注書きを添えてある。
- ・ 役所らしい優秀な答弁だと思う。それをどこで議論していくのか、この分科会も抽象的になってきている。これをやっているのは、次世代育成の中身と大して変わっていないし、税金を使っているのに無駄なことをやっているな、自分もこんなところに来ているけど結局役に立っていないなという感じがする。その中で、この8個の課題は、前回の我々の雑談の中で出てきたちょっと憂慮していることが書きあげられているだけであって、もう1回言うが、ニーズの中にはこれらについてどうしてほしいということはあまり書いていない。学童、保育行政、幼稚園、子育ての悩みなどは書いてあるが。
- ・ 課題がこれでいいのかを検証しながら進めていきたい。
- ・ 冒頭で削除されてしまった課題⑦について、表現はちょっと異なるが、経済的な格差に関わらず、保護者が子どもに受けさせたい教育を受けさせられるような仕組みを作ってもらいたい。広い意味では⑤に入れられなくもないかなと思うが、子ども・子育て支援新制度や子ども・子育て会議ができた経緯を考えると、本来であればここを議論せず何に議論するのかと思っている。具体的な細かい部分まではここでは決められないが、基本的な考え方は分科会または親会議で示していくべきだと思う。内閣府が出している資料をお配りするのでご覧いただきたい。子ども・子育て関連3法の主なポイントの1つ目に、「認定こども園、幼稚園、保育所を通じた共通の給付」とある。これは子ども・子育て会議の非常に重要なポイントとなるので、何らかの形で取り上げていただきたい。後程時間があれば詳しく説明させていただきたい。
- ・ 課題①について、保護者からは地域住民との交流を求める意見は出ていないかもしれな

いが、私が民生委員として活動する中で、子育てに不安を感じたり、子育てしにくいと考えている保護者は、孤立していて、子どもの発達について心配なことがあってもなかなか他人に言えなくて、一人で抱え込んでしまっている場合がある。そういう部分を支援している側からみると、地域住民と保護者は交流していく必要があると感じられる。子どもが小さいうちから保護者と地域住民がふれあう機会を重ねていけば、小学校にあがっても子どもに声をかけられるし、地域住民が子どもを叱ることがあっても、保護者とトラブルにならない信頼関係が築けるのかなと思う。なので、この①は必要なことかなと思うが、課題があまりにも大きすぎて、皆がやろうと思ってもできていないのが事実なので、課題をみて自分でも解決方法が浮かばなくて、この課題をすべてできるかといえば、本当の意味ではできないので、優先的にしていくことが必要なかなと考えている。

- ・子育てしている本人達のニーズではないけれど、支援する側の視点からみた地域の課題として、この課題はあってもいいというご意見だった。昔はわざわざそういう交流をしなくてもできていた関係性が、今はないから必要ということで、この課題を入れていく意味はあるということだと思う。
- ・例えば、地震が起きて、子どもが学校から家に帰る途中で何かあった時に、子どもに声をかけるのは地域住民になるので、ある程度関係性があつた方が、子どもも安心して大人に頼ることができると思う。そういう部分ではとても大事だと思っている。
- ・子を持つ親としてのご意見をお聞きしたい。
- ・私もそう思う。桑名市のフリーペーパーの今月号に、松ノ木で高齢者と子どもたちの交流会が特集されていた。そういうモデルケースをもっと紹介した方がいい。保護者として地域住民との関係を培っていくために5年くらいかかって、やっと馴染んできたと感じている。伊藤委員の視点は大事なことだと思う。
- ・松ノ木の交流会は、休園になった幼稚園で、子ども家庭課が主催した子育てサークルの取組みのことだと思う。
- ・①②を一緒にして課題として残すという考え方もあるがどうか。
- ・①②の具体的な取組みに何かいいものはないかと探したが、あまりハードルが高いものだと続かないと思う。登下校の見守り・あいさつ運動に取り組んでいる例があり、なかなか良さそうだったので印刷してきた。よくある見守り・あいさつ運動は、自治会の代表者が通学路に立って、子どもに「おはよう」と声をかけるものだが、私はもっと気軽に考えて、登下校の時間帯に洗濯物を干したり、犬の散歩をしたりして、子どもと会う機

会を増やせるように住民がちょっと心がける取り組みの方が簡単だと思う。それを市がやるのか、自治会単位かは別として、そういうことをすることによって、子どもが地域住民と顔見知りになれる。先程委員がおっしゃったことにもつながっていくと思う。あまり無理してやると、特に若い人は面倒臭いと思うだけなので、外での用事をできれば登下校の時間帯に合わせてくださいねと言うだけでも違うと思う。ある程度決まった時間帯や場所であいさつするようになれば、子どもも不審者と警戒する必要がない。コミュニケーションの基本はあいさつなので、良い運動になると思う。

- ・星見ヶ丘では、犬の散歩の際に付ける腕章を配る取り組みをしている。腕章をつけていることで地域住民だということがわかり、声をかけても大丈夫だという目印になっている。各地域でいろいろと工夫した取り組みがなされている。それが他の地域でも取組まれれば、もっと安定的なものになると思う。
- ・課題①②の参考として、アンケート調査報告書の96頁には、子育てに関して地域に望むことをたずねた結果が掲載されており、「子どもが事故や事件に巻き込まれないよう見守ってくれること」を81%、「子どもを注意したりしかってくれること」を54%の保護者が望んでいることがわかる。また、「子育てについて相談にのってくれること」は12.8%だが、回答者が3,000人以上いること考慮すれば、これは決して低い数字ではない。
- ・自由記述にはなくとも、全体の調査結果にはニーズとしてあることが読みとれる。この分科会は地域の子育て力を育てることを目的としているので、地域住民が一丸となっていく必要性、その意識を持つことから始める必要があるということ、前回の分科会で的確に指摘できていたのだと思う。
- ・課題の①②を合体させるのと、具体的な方策としては、登下校の見守りなどについてご意見を頂戴した。
- ・課題③はまさに学童だと委員からご指摘いただいたが、他の皆さんはいかがか。働いている保護者が夕方5時までに帰ってくるのは難しいと思う。市内で学童が充実しているのは長島だと聞いたことがあるが、現状はどうか。
- ・中部小学校の児童には利用しやすいが、伊曾島北部の児童には遠いので、通うのが難しい。ただ、伊曾島北部は人数自体が少ないので、学童を作っても経営が成り立たない。
- ・学童保育だけでなく、児童館を希望する人もいる。ただし、平日の夕方に子どもが過ごす場所としてなのか、休日の子どもの遊び場としてなのか、雨の日の遊び場としてなのか、詳細まではわからない。また、放課後子ども教室を希望する人もいるので、その辺の充実も大事だと思う。

- ・児童館の定義は何か。法律で決められているので、簡単には作れないと思う。
- ・児童館を代替するものとして放課後子ども教室があるのだろうし、桑名市独自のものが出てきても良いかも知れない。桑名市はこれまで色々な事業に取り組んできた経緯があるので、それらを上手に活用することも大事だと思う。
- ・保育士などの有資格者で、指導できる人が必要になる。面積もあるが、要するに指導できなければダメ。単に集まって遊ぶ場所では、児童館とは位置付けられない。運動施設や学習設備なども必要。設置場所等や指導者と児童の割合などに関する規定はなかったと思う。
- ・放課後子ども教室はどうか。
- ・放課後子ども教室には、コーディネーターがいて、その下にスタッフがいて、きちんと子どもに勉強や遊びを指導できるもの。夕方5時まで。おやつなし。基本的にボランティアが運営するのだが、そのボランティアが集まらなくて困っている。事業内容が毎年同じなので、子どもたちも飽きてくる。世代交代できないのが悩み。
- ・ボランティアでやろうとするから無理があるのだと思う。有償のやり方でも色々な方法があると思うので、柔軟に考えてやれば、意外としっかりしたものができてくると思う。お金を取るとすぐに「営利目的だ」とか、「タダでやらなければいけない」「安くやらなければいけない」という考え方自体を変えていくべきだと思う。
- ・そこに安全性などを求められれば、非常にハードルが高くなってくる。
- ・時給900円で学童の指導員の募集をかけても、集まらないことが多い。
- ・学童は何時までみてくれるのか。
- ・一番遅い子で19時半くらい。
- ・学童の指導員の仕事は、時間帯として出にくい。
- ・16時から19時の間に指導員がほしいが、その時間帯に働ける人は限られている。
- ・その時間帯に人手がほしいのは保育園も一緒。
- ・預けられる時間帯をみれば、働く保護者にとって一番安心できるのは学童保育。
- ・高学年になれば自宅で1人で留守番できるし、習い事もあるので、学童に来る子は減る。学童に登録してあって月8,000円払っているのに、月3日くらいしか来ていない子も多い。そういう家庭が何故学童に登録しているかという、夏休みに預けたいため。学童では、夏休みだけ預けたいというのはお断りしている。一時的に極端に利用が増えてしまうと、経営が成り立たないから。そういう意味では、学校のない夏休みに学童のニーズが高い。3・4年生になると、習い事などで利用が一気に減る。なので、本当にニーズとして必

要なのは1～2年生くらいまでの低学年。一応学童は6年生まで利用できるが、圧倒的に少ない。

- ・児童館、学童、放課後子ども教室が混在しているので、それがどう連動しているのか。地域性にもよるし、各家庭の考え方、ニーズにもよる。本当のニーズはどうか。
- ・1週間ほど前の日経新聞に欧米の少子化対策の記事が載っていた。祖父母の近所に住む核家族には税制優遇する内容だった。日本でも同じようなケースがあったので、資料としてお配りしたい。学童や児童館の充実は望まれることだが、預ける場所を充実させることだけに偏ってしまうのはどうかと思っている。資料は、三世代同居を促進する優遇措置の拡充だが、同居を嫌う人も多いと思うので、同居に限らず、ある程度一定地域内で土地・住宅を取得した場合には税の優遇措置を設けることも1つの手段だと思う。身内が近所に住むことで、互いに助け合うことができる環境を整備することも有効な策だと思う。
- ・おっしゃる通りだと思う。私の住む蛸塚地区は、同居または敷地内同居ばかり。
- ・高齢者と同じで、わずかな見守りや気遣いがあれば生活できることは子どもと共通する。課題③は、特に小学校低学年の児童の居場所が課題であり、解決に向けた方向は、学童、児童館、放課後子ども教室に加えて、家族で一緒にみる方法なども織り交ぜながら具体的なものに結び付けていけると良い。施策としてないものについては、どうやったら充実させられるのか、現在の児童館の利用状況がわかるとみえてくる。
- ・随分前の話だが、深谷地区の児童館は学童保育的に使われていた。夏休みに朝から子どもがいて、昼は出なければいけないが、昼食後に戻ってくる。地域によって差があるのは、本当はおかしいと思う。元々の成り立ちがあるので仕方がないのかも知れないが、他で必要としている地域でも充実していかなければおかしいと思っている人は多い。
- ・共働き家庭の子どもの居場所は、学童しかないと思う。学童の補助金は人数や年数に左右されるが、補助金をしっかりすればきちんと成り立つ。
- ・学童は保護者が運営している小さな会社のようなもの。
- ・多度の学童は社会福祉法人が運営しているので、経営面は楽だが、その分保育料が上がっていると思う。
- ・多度の学童は、最初は自治会、次に保護者会、最終的に四日市の社会福祉法人がやっている。時代が変わった。
- ・お金を払っているので、保育園の延長と思っている保護者も多い。保護者が運営していたことを2年生になって知る人が多い。それが煩わしくて、学童に入れないとする親も

多い。週4日程習い事に通わせていけば、居場所自体は確保できるのでいいという人もいる。

- 一番管理が難しいのが学童。
- 保育園のような形で運営している自治体もある。確か、豊田市がそう。また、市内でも桑名と長島では、桑名の方が学童料が高くて、建物が粗雑。桑名は公設民営が基本で、民設民営もある。長島にも不動産屋がやっている民設民営がある。
- 地域によって格差がある。
- 一括りで学童とするのではなく、保護者が何を求めているのか話し合えばいいと思う。安く預けられればとりあえず何でもいいのか、ある程度お金を負担してでもしっかりしたものを提供してほしいのか、その辺がわからない。
- 長島でいうと、公設民営は月8,000円＋延長保育量が基本で、イベント費などのちょっとした出費が加算されて、ベースとしては1万円程度。不動産屋の民設民営は、1時間当たり100円でやっているのだから、預けた分だけお金を払うシステム。指導員は特におらず、宿題をみてくれるわけでもないらしい。ただし、会計などの煩わしいものはない。こればかりは保護者の考え方による。都会では、学習塾が経営している非常に高い学童保育があるらしい。質の高い教育のためには厭わないという人も多いので、都会では成り立っている。
- 高い質を求めるのであれば、塾と同じでそれに見合った対価を払うのは当然だと思う。逆に、とりあえず安全だけを確保してほしいというのであれば、例えば公園に警備員を1人雇って子どもを自由に遊ばせておくのも、選択肢の幅としてはあり得る話だと思う。何を保護者が求めているのか、必要最低限行政としてやらなければいけないのはどこまでなのかをもうちょっと明確にしておかないと、何でもかんでも保護者の要求に応じていくのは厳しいと思う。
- 学童は、家庭的なアットホームの中で、親の代わりに子どもたちの世話をしてくれたり、楽しんだり、宿題をみてくれたりするものが根底にある。
- 我々が子どもの頃は、小学校から家に帰ったら、そのまま公園に行って遊んでいた。なぜ今の保護者が安全を求めるのかを考えると、公園に行っても暗いし、不審者がいると心配なので、学童に預けたいという部分から来ていると思う。なので、安心・安全を確保することが一番の基本だと思う。結局、料金をとって人と雇用契約を結んでやるのであれば、塾を運営する会社が提供する学童と何が違うのかという話になる。教育的な質まで求めるのか、必要最低限の安全を確保するのか、まずはしっかり線を引いて考えて

いく必要があると思う。

- ・学童保育のあり方も昔のあり方に戻る必要がある。
- ・課題が関連しているので切り分けて話すのは難しいが、課題④についても何かご意見を聞かせてほしい。保護者が安心できるには、何かと有資格者が必要なのか、それとも地域住民普通に声をかけたりすることで良いのか。
- ・近所の人で充分。地域というと自治会の関わり方だと思うが、若い保護者に問題がある。先日、桑名市一斉ごみ拾い運動があったが、行っても若い人は少ない。子ども連れは、ウチと3家族くらいしかいなかった。高齢者ばかりで、40～50代はほとんどいなかった。そういうところに入っていかない若い世代の意識も問題。それが変わらないと、どうしても難しい部分がある。
- ・私の住む地域では、ゴミ拾いに子ども会で出席するので、多くの人に参加する。子ども会にしてみると大変かも知れないが、肩肘張らないチームみたいなものがあると動きやすい。地域の人づくりとあるが、作らなくてもいる。草の根的に色んな活動をしている保護者がいる。それらの人達には、決定力も責任能力も人を集める力もあるので、そういう人達をつなげてうまくコーディネートしていけば生まれてくるものがある。
- ・つなぐこととリーダー的な人を発掘していくことも大事だが、子育て中の保護者が求めることと提供できること、自分のお世話になったら気遣ってお世話しようという気持ちがあれば、自ずとできあがっていくものだと思うが、その気持ちが欠如している気がする。役を嫌がったり、行事の出席を面倒臭がったりすることが多い。
- ・若い時には往々にしてそういうことがあると思うが、年を取れば段々意味がわかっていくと思う。
- ・何かのきっかけになっていると思うが、そのきっかけをどう作るか。
- ・多くの人と関わることで気付けると思う。地域の中で交流やつながりを深めることが大事。
- ・地域の関係性が良い立教地域は運動会などの行事がすごい。星見ヶ丘の夏祭りもすごい。各地域にそういう関わりがあると良い。
- ・地域住民とというと、若い世代にはハードルが高い。同じ子育て世代の保護者同士であればハードルが下がる。その交流の肝になるのは、幼稚園や保育園などのコミュニティ。コミュニティの形成には、送迎などの機会が重要。公立保育園の夏祭りは、以前は地域と一緒にやったり保護者が参加できたりしたが、子どもだけのサマーフェスティバルに変わってしまい、保護者は見学だけになってしまった。保護者同士が交流できる機会だ

ったが、なくなってしまったために交流できなくなった。そこを結びつける最初にしておけば、小学校入学後にモンスターペアレントを生まないというメリットがあると思う。保護者同士がつながっていれば、いきなり学校に怒鳴り込む親はいないと思う。相談できない保護者も減る。

- ・オーストラリアに住んでいた時に、子どもの保育園で交流するイベントがあった。園の関係者だけだと行きにくいのが、地域の方がイベントに参加することでより楽しめた。つながりを築く機会となっていた。保育園・幼稚園が果たす役割は大きい。
- ・星見ヶ丘の夏祭りは活気があるという話だったが、非常にオープンにやられていることが関係していると思う。津田大山田幼稚園は星見ヶ丘地区ではないが、星見ヶ丘の子どもが多く通っているの、園として参加するように招待してもらえる。地域に拘って排他的になるのではなく、より多くの人に参加できる姿勢の地域の方が、今後は良いのではないかと思う。地区で固まるのではなく、いろんな人を呼び込む考え方も大切だと思う。
- ・幼稚園や保育園などたくさんあるので、皆が一緒になって共同でやる企画を立てても良いと思う。そのためには、リーダー的な人が企画を立てて、運営委員会のような形でやっついていかないとかなかなかうまくいかない。私立園で既に取組んでいるものはあるか。
- ・多度病院の夏祭りとかあやめ祭。地域では健やかフェスタ。多度の3園でローテーションしながらやっている。お寺の園なので地蔵盆もやる。ただ、以前は保護者も早い時間から参加していたが、最近は来ない。時間を守らない。おしゃべりに夢中で子どもをみない。コミュニケーションはとれているのだろうが、親子としてではない。
- ・保護者に満たされないものがあるのだろうか。
- ・暑いし、面倒臭いというのが大きいと思う。
- ・授業参観でも、保護者同士がおしゃべりに夢中になって、うるさくなり、授業の内容が聞こえないことがある。
- ・参観日に来ない保護者が増えた。つながりは大事だが、変なつながりができるとモンスターペアレントが増える。
- ・授業参観等への保護者の参加意識は、確実に高まっていると思う。
- ・保護者のモラルは確実に低下している。間違いなく。
- ・一長一短だと思う。コミュニケーションはとれているが、その場所やタイミングをわきまえない人が増えた。地蔵盆の時は特にひどい。
- ・お寺は地域の集会所的で、子どもから高齢者までが集まれる場所。なるべく地域に提供

してもらって、そういうところも活用していくことが大事。

- 団地ができてから多度も付き合い方が変わった。同居が減っている。親が子どもをどうしたいのかがはっきりしないと、交流事業をやってもうまくいかないと思う。交流するにしても中身を精査して根底に何があるのかをはっきりさせないといけない気がする。
- 行政側の先生として困ったことはないのか。あれば、匿名で教えてほしい。
- 地域の集まりをつくることは第一の目標だと思うが、地域住民が子どもに声をかけてくれるというのが本当の目的。そうできれば、虐待対策としても有効だと思うし、そういうのをめざしたい。地域の集まりができるだけでもありがたいが、もう1つ上のステップとして、子どもに声をかけてくれる住民が1人でも増えてくれることを願っている。私は津市の南が丘に住んでいるが、小学生に「あいさつおじさん」として有名な元警察官がいる。大きな声で「おはようございます」と言うので、地域の有名人で、地域の良いモデルとなっている。こういう人がいると、まわりの人もつられてあいさつするようになるし、見守り体制がしっかりしていくと思う。
- あいさつするときにしっかりと向き合うことも大事。
- イベントをやるのであれば、大人と子どもが名前を呼び合えるような仕掛けがあると良い。
- 小学生の頃にオクラホマミキサーをやったのを思い出したが、一瞬これも良いなと思った。イベントに盛り込んでも面白いかも知れない。
- 保護者は、見守ってほしい、誰かにやってほしいという意識が強い。また、子どもと一緒に自分を認めてほしい保護者もいる。昔は、自然と互いに見守り合う関係ができていたが、最近はやってもらって当然で、自分は何もしないという保護者が多いと思う。やってもらっただけではなく、自分に何ができるかを探しながらそういう関係を作っていきたい。
- お互い様が大事。
- 課題①②④⑥は連動している。
- 課題の言葉が少し大きすぎるので、焦点が絞り込めない。もう少し整理してもらいたい。
- 今日の話で、いくつかなるほどと思う点があった。冒頭で委員から課題がずれているという指摘があったが、この分科会は地域の子育て力を育てることを目的としているので、表現がちょっとずれてしまったことはお許しいただきたい。ご指摘の課題は、事務局としてもしっかり認識している。

- ・今からお話しするのは、これまでの話を聞いていて浮かんだキーワードだが、まず、保護者も住民も行政も面倒臭いことをしなければならないということ。面倒臭いと思った時に一歩を踏み出せると随分違ってくると思う。その面倒臭いを乗り越えることが大事。次に、お節介にならないといけない。個人主義は大事で、自分の生活や家族を守っていかなければいけないが、本当に守っていくためには、周り・社会と関わっていかなければいけない。その際に、自分に意見があれば言わなければいけないし、人から何か言われたら受け止めなければいけない。そして、お互い様。この3つが、ずれているようで、共通していると思う。そういった観点でまとめながら、その裏には財政的な面もしっかり考慮していかなければいけない。市として作らなければいけないものは、いくらお金がかかってもつくらなければいけないだろうが、それを何かに代替できるものがあれば、それでも構わないと思う。例えば、学童、児童館などの子どもの居場所、特に放課後や長期休暇中の居場所づくりは少し整理しなければいけない。市としてお金をかけなければいけない部分があるかも知れないし、地域に任せられる部分もあるし、そこには親も絡まなければいけない。ここで大事なことは、民間でいろいろやっているところは勿論のこと、地元の商店や企業を巻き込みながら子育てをしていかなければいけない。行政の役割としては、皆さんの税金を使って何かをやるわけなので、本当に求められているものに使われなければいけない。この場でも議論していかなければいけないし、親会議でも議論していかなければいけない。今回の計画は、子ども・子育て支援事業に関するものの計画であり、次世代育成支援も入った子どもの総合計画なので、行政としては、どうやってお金を使って求めているものを形にしていくかを計画に落とししていかなければいけないし、市民は自分の役割をそれぞれ把握しながら面倒臭さを乗り越えて、何かをやっていく仕掛けづくりも必要になる。色々と具体的な例が出てきているので、今後思い付いたことがあれば事務局にご連絡いただきたい。
- ・課題や解決の方策について色々と意見が出されたので、前回までの意見もさらし直す必要がある。また、財政面の話が常にバックにある。時代に合わせたお金の使い方を市にも共有してもらいたい。必要なものにお金をかけ、不必要なものから割いていくためには、ニーズを的確に評価しながら進めることが重要になる。
- ・配布されている資料について質問がある。机上配布の21頁のNo.135について、私立幼稚園については市の所管ではないという主旨の回答だが、市と私立幼稚園の関係を築けなかった根本がここにある。県の知事部局が所管だから、市が支援をしてはいけないという理由はない。桑名の子どものために公立・私立に関係なく支援をしていこうという気が

ないといけないと思う。加えて、現在は知事部局の所管だが、平成27年度に新しい制度が導入されると、最初にお配りした資料にあるとおり「基礎自治体（市町村）が実施主体」となる。幼稚園は新制度に移行するか今後決めなければいけないが、移行すれば市が所管となる。それを踏まえて、皆さんに問題提起だけさせていただきたい。配布した資料をみていただくとわかると思うが、保育料について、国が設けている現行の費用徴収基準と桑名市のそれとでは、金額にかなりの差があることがわかる。この差は、市が保育園に対して税金を投入して、保育料を下げていることによるもの。一方、幼稚園については、国の就園奨励費の制度内で、市からも若干保育料の補助を頂戴しているが、やはり公立と私立とではかなりの格差がある。平成27年度から新制度に変わるが、幼稚園が新制度に移行すると、市が私立幼稚園の保育料を決めることになる。これまで私立幼稚園は自分たちで保育料を決定し、県が管理していたので、市としては教育を提供する義務がなかった。平成27年度以降は、市が私立幼稚園の保育料を決定することになるので、私立園の立場から言えば、保育園と同じ保育料にするのが筋だと考えている。現状ではかなりの開きがあるので、段階的にどうしていくかが問題となってくるが、この認識が一般市民には知らされていないので、私立はたくさん儲かっているから仕方がないと思われる。実際にはそうではなく、私立の幼稚園だけ圧倒的に投入される税金が少ない上に、保育料にそのまま反映されてしまっているのが問題。平成27年度以降の制度は、子ども・子育て会議の大きなテーマだと思うので、提言くらいはさせていただきたいと考えている。わかりづらいテーマだが、27年度からは市が所管となり、市が実施主体となって幼稚園教育を担っていく。つまり、私立だろうと公立であろうと、今の保育園と同様に同じ金額となるのが筋だと思っている。ぜひご理解いただきたい。

- ・ ついでなので説明したい。津田委員が配った国の資料をみると、現行の保育料は新制度以降も変わらないような表記に見えるが、かかる税金の種類が所得税額から所得割課税額に変更され、金額の区分も変わっている。つまり、算出方法が変わっているので、それぞれが払っている保育料は変化する。
- ・ ただし、桑名市は、市がこれまで設定してきた保育料を基本にしていくことになる。桑名市は財政的に余裕がないが、保育園にはかなりの税金を投入していることを理解しておいてほしい。また、私立幼稚園の立場で言わせてもらうなら、同じ桑名市の子どもであるにもかかわらず、私立幼稚園に通う子どもにはほとんど税金がかけられていない。具体的な数字はここで決められないと思うが、私立幼稚園が置かれている立場をご理解いただき、格差をなくす方向に向かうよう親会議で提言させていただきたい。

- ・保護者が知りたいのは、制度が変わって保育料がどのように変化するかだと思う。
- ・こども園になると、長期で預かる子どもについては、基本的に保育園の金額になる。短期については、公立はこれから決められることになる。私立は新制度に移行するのか、従来型でいくのかによって変わってくる。
- ・これまで幼稚園に通っていたのに、認定こども園になることによって保育料が変わってしまうことはあるのか。
- ・1号～3号まで認定区分があったのを覚えていらっしゃるかと思うが、1号と認定されると、こども園であっても幼稚園の料金になる。私立幼稚園は県の所管で、保育料についても勝手に決めてやっているから知らない、税金も投入しないという市の理屈は、これまではギリギリ筋が通っていたと思うが、今後は明らかにおかしくなる。これからは市が責任を持って幼児教育をしていくことになるので、公立・私立の保育料も同額になるのが基本だと思う。保育所は市が所管なので義務が発生し、税金を投入して一緒に保育料でやっている。幼稚園も同じ理屈になるので、同様の措置を取らないのはおかしいことになる。ただし、今は非常に安い保育料が設定されているので、時間をかけて合わせていくことになると思う。
- ・幼稚園も所得に応じて保育料が変わることになるということか。
- ・現在は、私立幼稚園の保育料は一定だが、就園奨励費が所得によって違う。
- ・所得税に対してか。
- ・市民税の所得割にかかる。
- ・大体680万円以下の人に出されている。先程、第3子について指摘があったが、今年から第3子については、小学3年生を上限として所得に関係なく約305,000円が出されている。ちょっとずれるが、何故保育園が5歳までで、幼稚園が小学3年生までかという点、保育園は0歳から始められていて、幼稚園は3歳から始まっているから、その差の3年分が足されている。
- ・数字が出るとちょっと難しい。
- ・管轄が、県だろうが、市だろうが、同じ桑名市の子どもでしょうと。最近では発達の遅れが気になる子が増えており、県がきちんとできていないのであれば、市として子どものために補っていく姿勢が求められると思う。所管がどこかは関係ない話だと思う。これまでは所管ではないという理由で、残念ながら外に追いやられていた感がある。これからは改善されると見込んでいる。
- ・事務局には本日出された意見の整理をお願いしたい。皆さんには、もう1度集まる時間

を頂戴したいと思う。

- ・他市の少子化対策で良い施策を知りたい。資料としてまとめてあれば出してほしい。
- ・時間がかかるので次回までには無理だが、前向きに検討したい。

(以上)